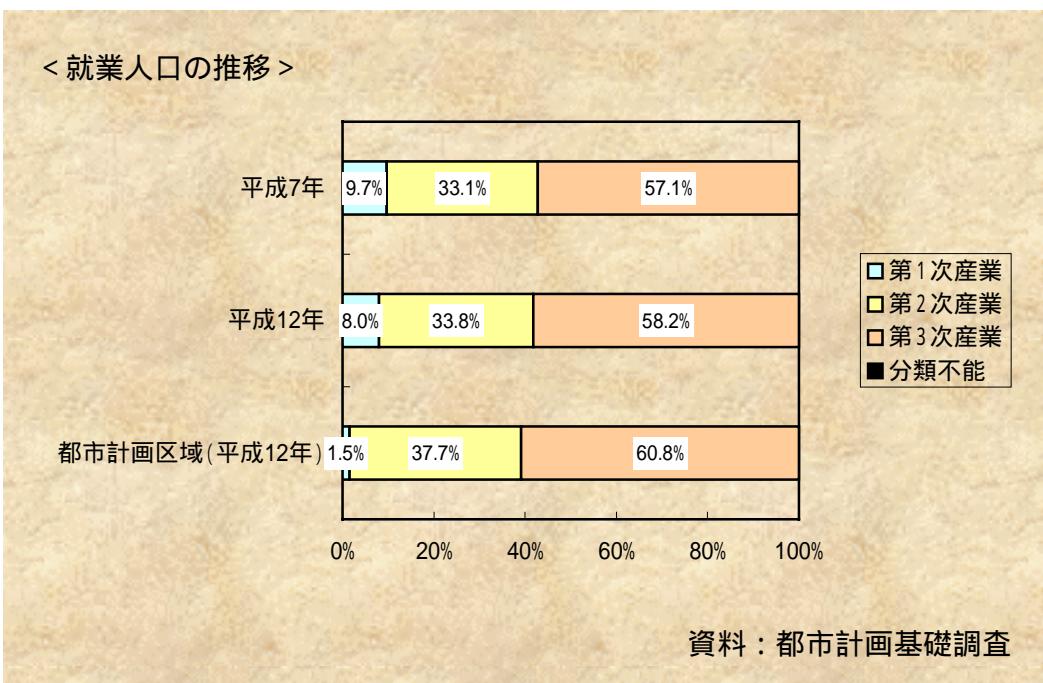


2 - 4 まちの状況

(1) 産業

産業構造	鉄鋼業と水産業を中心に発展してきた「鉄と魚のまち」です。 三陸沿岸の主要な就業地となっています。
------	---

- ・安政4年(1857年)大島高任による洋式高炉の出銘成功以来、鉄鋼業が栄え、水産業とともに「鉄と魚のまち」として発展してきました。
- ・国勢調査(H12年)による産業別就業人口は、第3次産業が12,477人と最も多く、全体の6割近くを占めています。
- ・「事業所・企業統計調査報告(H8年)」による本市の事業所数は3,162を数え、現在も県内三陸沿岸の主要な就業地となっています。



釜石駅前の工場



農林業

都市計画区域内の農家数は、5年間で半減しています。

- ・主要農産物は米と野菜ですが、その生産量は年々減少傾向にあります。その他、特産物として柿やりんご等の栽培も行われています。
- ・本市は林材の育成に適した環境であることから、特にスギの育成は良好ですが、就業者の減少や高齢化の進行等により、林業生産活動は停滞しています。今後、管理の不十分な森林が増加し、水源涵養等の森林の公益的機能等が低下することが懸念されています。
- ・都市計画区域内においても、釜石西地区や鵜住居地区には多くの農地もみられます。主に農業の振興を目的として定める農業振興地域指定は、鵜住居地区のみとなっています。
- ・平成7年から平成12年までの本市の農家数の推移をみると、専業農家・兼業農家ともに大幅な減少傾向にあり、特に都市計画区域内では5年間に半数以下に減少しています。

<農家数（販売農家）の推移>

単位：戸

	平成7年		平成12年		増減率		備考
	専業農家	兼業農家	専業農家	兼業農家	専業農家	兼業農家	
釜石	2	39	0	4	100.0%	89.7%	釜石東地区、平田地区
甲子	45	95	20	38	55.6%	60.0%	釜石西地区
鵜住居	15	188	6	67	60.0%	64.4%	鵜住居地区
市全体	111	633	68	279	38.7%	55.9%	栗橋地区、唐丹地区含む

資料：世界農林業センサス

釜石西地区の農地

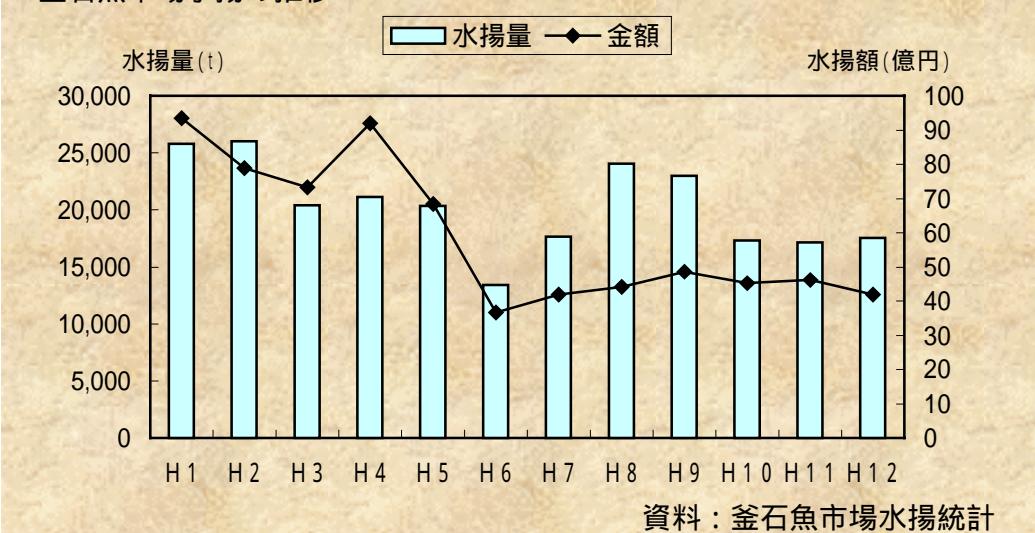


水産業

“つくり育てる漁業”も積極的に行われています。

- ・釜石湾を中心とした15の漁港を拠点として、本市の水産業は発展してきましたが、公海の漁業規制や後継者不足等、水産業を取り巻く環境は厳しいものとなっています。
- ・沿岸漁業や沖合・遠洋漁業のほか、ホタテ貝、ワカメ、コンブ、カキの養殖等の“つくり育てる漁業”も積極的に行われています。
- ・岩手県水産技術センターは、水産業の振興に向けた研究・開発機関となっています。また、この施設は、見学等で一般にも開放されており、市民の身近な憩いの場となっています。
- ・(株)サンロックでは、本市の新たな特産物として期待されている高級魚のチヨウザメとマツカワを生産・販売しています。

<釜石魚市場水揚の推移>



資料：釜石魚市場水揚統計

釜石漁港

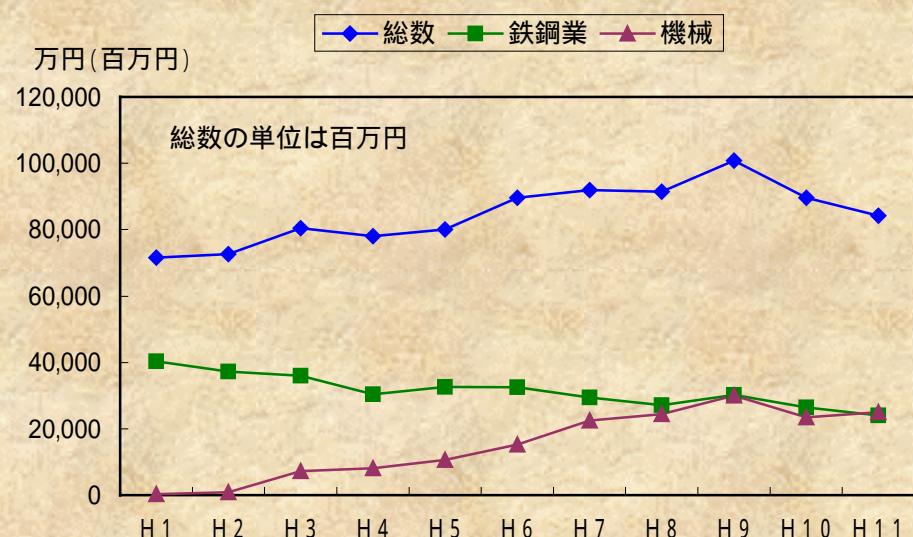


工業

鉄鋼業から機械製造業へと中心が移行しつつあります。

- ・本市の工業は、鉄鋼業が中心となって発展してきましたが、平成 8 年以降は、鉄鋼業と機械製造業の製造品出荷額等がほぼ同じであり、また、平成 10 年の鉄鋼業従事者が、昭和 50 年代の 3 分の 1 以下の 868 人まで減少していることから、工業の中心は機械製造業へと大きく移行しつつあります。
- ・製造品出荷額等は近年減少傾向にあり、平成 11 年の製造品出荷額等は、県内市部の 6 番目の約 842 億円となっています。
- ・新日鐵株釜石製鐵所は、市内工業系用地の大部分を所有していますが、現在低未利用地となっている部分がみられ、活用策の検討が進められています。

< 製造品出荷額等の推移 >



資料：工業統計調査

工業地帯

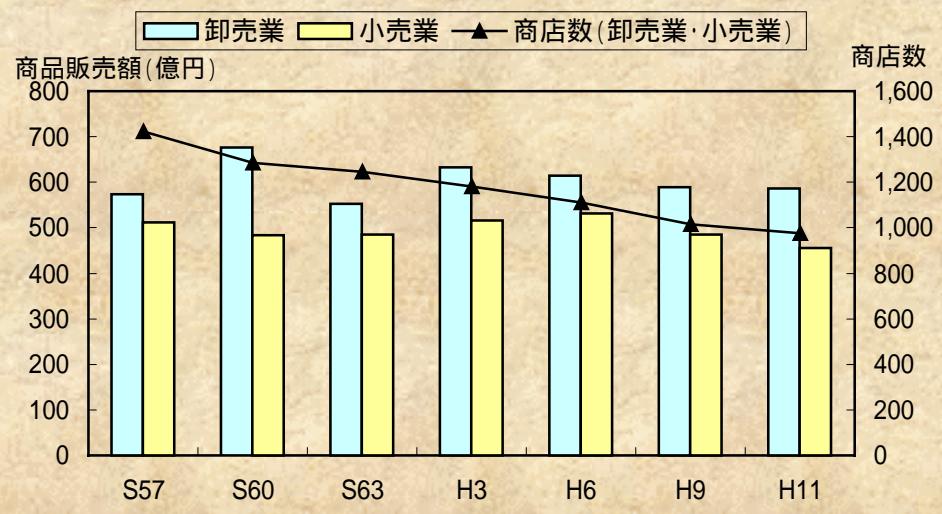


商業

中心部などの商店街では、活力の低下がみられます。

- ・周辺市町への大規模小売店舗の進出などにより、年々地元購買率が低下しており、商店数・年間販売額等も減少しています。
- ・中心市街地の商店街では、空き店舗の増加、経営者の高齢化、後継者不足等の問題を抱えています。
- ・近年、モニュメントの設置やアーケードの撤去、イベントの開催等、商店街ごとに独自の取り組みが行われています。

<販売額・商店数の推移>



資料：商業統計調査（H11）

大町商店街方面を望む



観光

主な観光資源は、海岸沿いに分布しています。

- ・観光客入り込み数は、近年増減を繰り返しながら 100～130 万人規模で推移しています。平成 12 年の宿泊客は、観光客全体の約 1 割程度であることから、日帰りを中心の観光形態となっています。また、季節別に見ると観光客は夏に集中しており、夏型の観光地といえます。
- ・釜石大観音や鉄の歴史館、根浜海岸等の主な観光施設は、海岸沿いに分布しています。
- ・近年、農山漁村で自然や文化、住民との交流を楽しむ滞在型の余暇活動「グリーンツーリズム」への関心が高まっており、本市においても積極的な取り組みが行われています。

< 観光客入り込み数の推移 >

単位：人回

		H 2	H 7	H12
県内	日帰り	577,747	617,556	655,926
	宿泊	64,090	50,314	66,302
	計	641,837	667,870	722,228
県外	日帰り	230,417	443,121	333,180
	宿泊	54,896	89,060	51,903
	計	285,313	532,181	385,083
総数	日帰り	808,164	1,060,677	989,106
	宿泊	118,986	139,374	118,205
	計	927,150	1,200,051	1,107,311

資料：釜石市観光物産課

< 観光地別観光客入り込み数の推移 >

単位：人回

	H 2	H 7	H12
鎌崎(釜石大観音)	263,671	197,456	121,798
鉄の歴史館	49,957	52,593	24,500
根浜海岸	175,617	154,360	121,577
荒川海岸	33,480	52,871	38,400
その他	404,425	742,771	801,036
総数	927,150	1,200,051	1,107,311

資料：釜石市観光物産課

(2) 都市計画

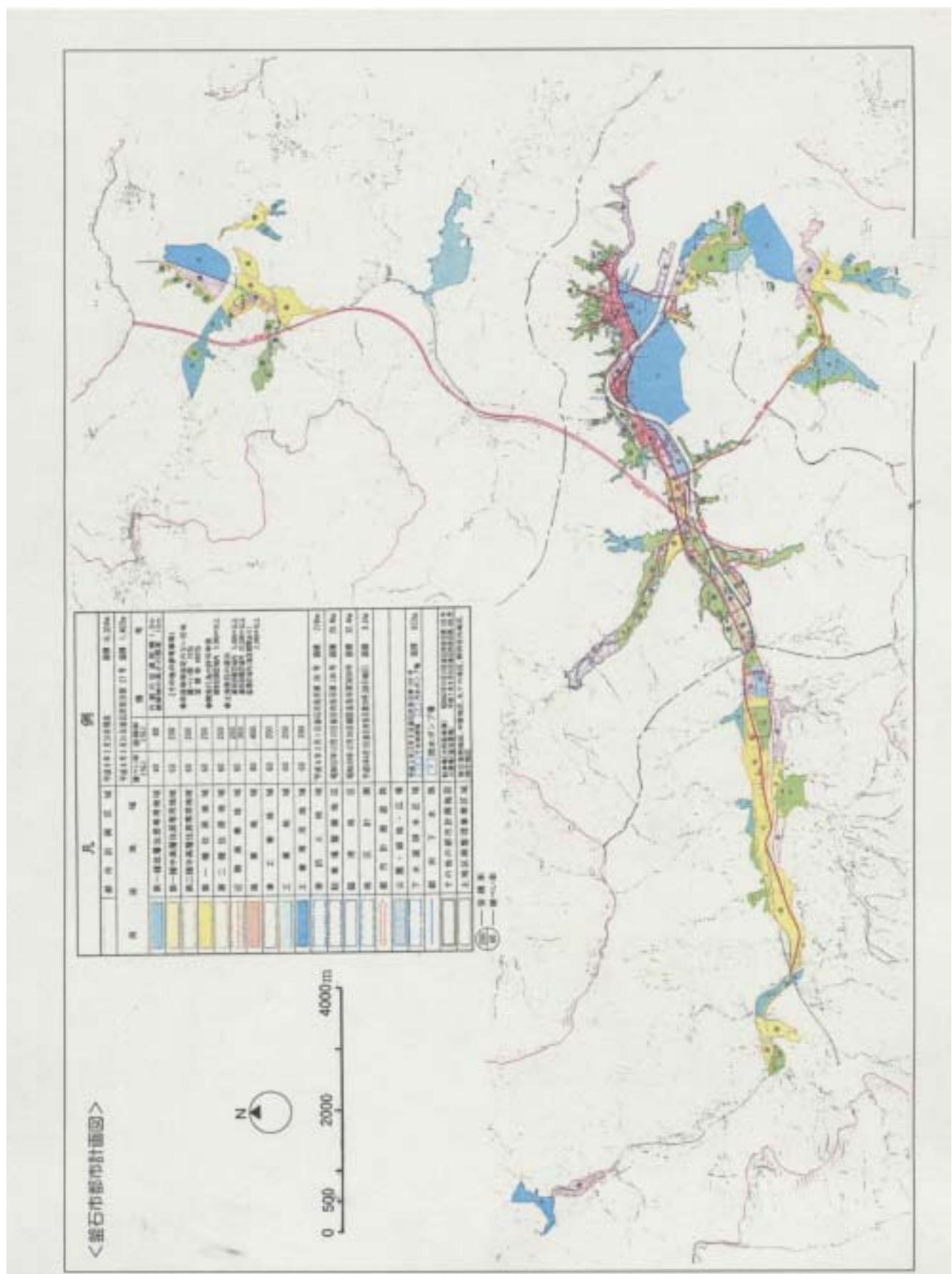
地域地区 工業系用途地域が比較的多く指定されています。

- 平成 12 年 3 月 31 日現在、都市計画区域は市面積の約 37%、16,326 ha であります。市街化区域と市街化調整区域は定めておらず用途地域指定のみを定めています。
- 用途地域内の内訳は、住宅系用途地域が約 6 割、工業系用途地域が約 3 割、商業系用途地域が約 1 割となっており、工業専用地域等の工業系用途地域の占める割合が比較的高くなっています。ただし、工業系用途地域における現況の土地利用は、空地・農地等の工業系ではない部分が多くみられます。
- 釜石港の湾岸部は、港湾を管理するために都市計画で定める臨港地区に指定されており (44.0ha) また中心市街地では、火災による危険から守るための準防火地域 (218ha) や、駐車場の計画的な整備を進めるために定めた駐車場整備地区 (29.4ha) が指定されています。

< 用途地域面積 >

		種類	面積 (ha)	用途指定面積に 占める割合	備考	
住宅系		第一種低層住居専用地域	130	8.9%	58.4%	
		第二種低層住居専用地域	-	-		
		第一種中高層住居専用地域	329	22.5%		
		第二種中高層住居専用地域	62	4.2%		
		第一種住居地域	328	22.5%		
		第二種住居地域	4.5	0.3%		
		準住居地域	-	-		
商業系		近隣商業地域	66	4.5%	7.8%	
		商業地域	48	3.3%		
工業系		準工業地域	188	12.9%	33.8%	
		工業地域	31	2.1%		
		工業専用地域	275	18.8%		
		用途地域面積計	1,461.5	9.0%		
都市計画区域面積		16,326	37.0%		都市計画区域面積に対する割合	
行政区域面積		44,129			行政区域面積に対する割合	

資料：釜石市の都市計画（平成 13 年 5 月）



(3) 都市整備

市街地整備 土地区画整理事業により基盤整備が行われてきました。

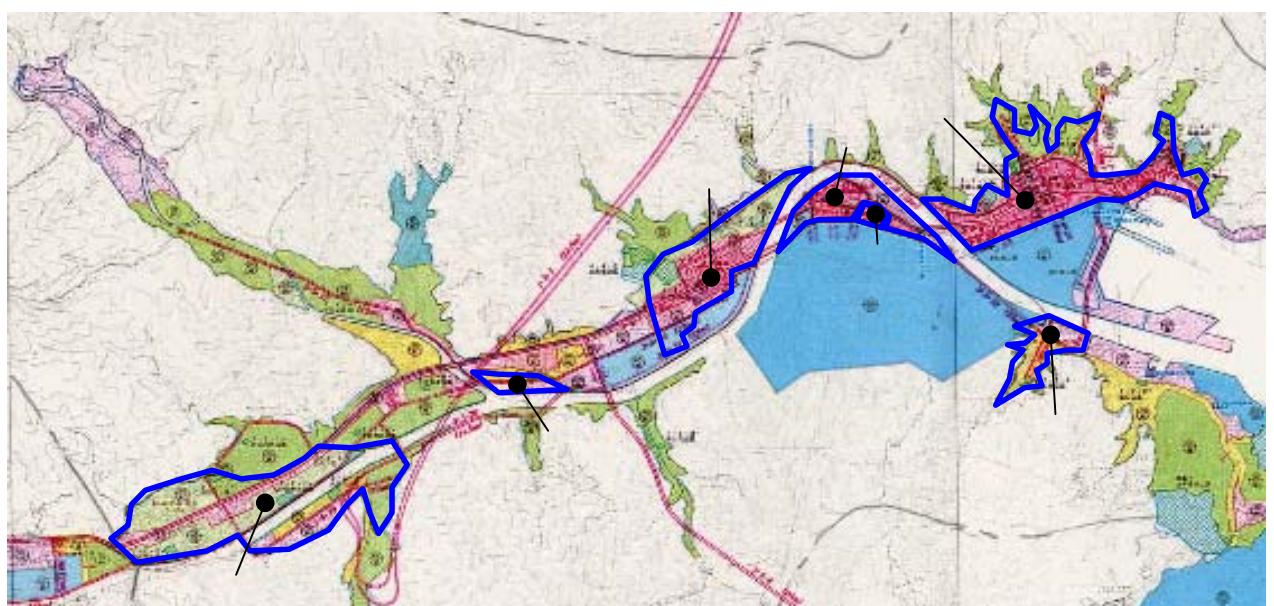
- ・本市の市街地は、昭和 8 年の三陸大津波により甚大な被害を受け、その後、内務省の復興計画に基づき都市計画区域に指定され、災害に強いまちづくりが進められてきました。
- ・昭和 20 年の 2 度にわたる艦砲射撃によって大きな被害を受け、戦後戦災復興計画に基づく土地区画整理事業により、道路や公園等が整備されました。
- ・土地区画整理事業は 5 地区で実施され、現在は釜石駅周辺の鈴子地区を施行中です。また、鈴子地区は地区計画も定めており (9.6ha) 本市の顔としての環境整備を進めています。

< 土地区画整理事業 >

事業名	施行者	施行面積 (ha)	施行期間
釜石都市計画事業復興土地区画整理事業	県知事 市長	71.30	S23 ~ S35
釜石都市計画中妻地区土地区画整理事業	釜石市	36.51	S34 ~ S56
釜石都市計画礼ヶ口地区土地区画整理事業	釜石市	6.12	S39 ~ S47
釜石都市計画事業野田定内地区土地区画整理事業	釜石市	71.67	S45 ~ H9
釜石都市計画事業鈴子地区土地区画整理事業	釜石市	12.10	H2 ~ H16

資料：釜石市の都市計画（平成 13 年 5 月）

< 土地区画整理事業区域 >



港湾

産業的な利用が中心となっています。

- ・釜石港は、物流機能と水産基地を担う重要な港であり、本市の主要産業である水産業、鉄鋼業を支える拠点としての役割を果たしてきました。
- ・近年貨物量はほぼ横這いですが、平成 11 年から混載自動車専用船の定期航路が開設され、貨物量の増大が見込まれます。
- ・東北最大級の - 14m 専用桟橋があり、18 万トン（2 港揚）船舶が入港することができ、24 時間・通年荷役可能な体制も整っています。また、安全で効率的な港湾を目指して、釜石港湾口防波堤の建設と耐震強化岸壁等を有する公共ふ頭の拡張整備が進められています。
- ・市街地と海が近いことが、本市の大きな特徴ですが、市街地から気軽にアクセスできる構造にはなっていません。また、市街地内でも「みなとまち」を感じる要素は少なくなっています。
- ・物流の拠点としての機能や親水機能の充実等、効率よく活用するための検討を行っています。

釜石港



釜石漁港

魚市場の移転が予定されています。

- ・釜石漁港は、岩手県沿岸の主要な水揚基地となっています。
- ・釜石魚市場の近年の水揚高は、ほぼ横這いで、水揚量は伸び悩んでいます。
- ・魚市場の老朽化に伴い、新浜町地区への移転が計画されており、魚河岸地区の効率的な土地利用が検討されています。

釜石漁港



幹線道路

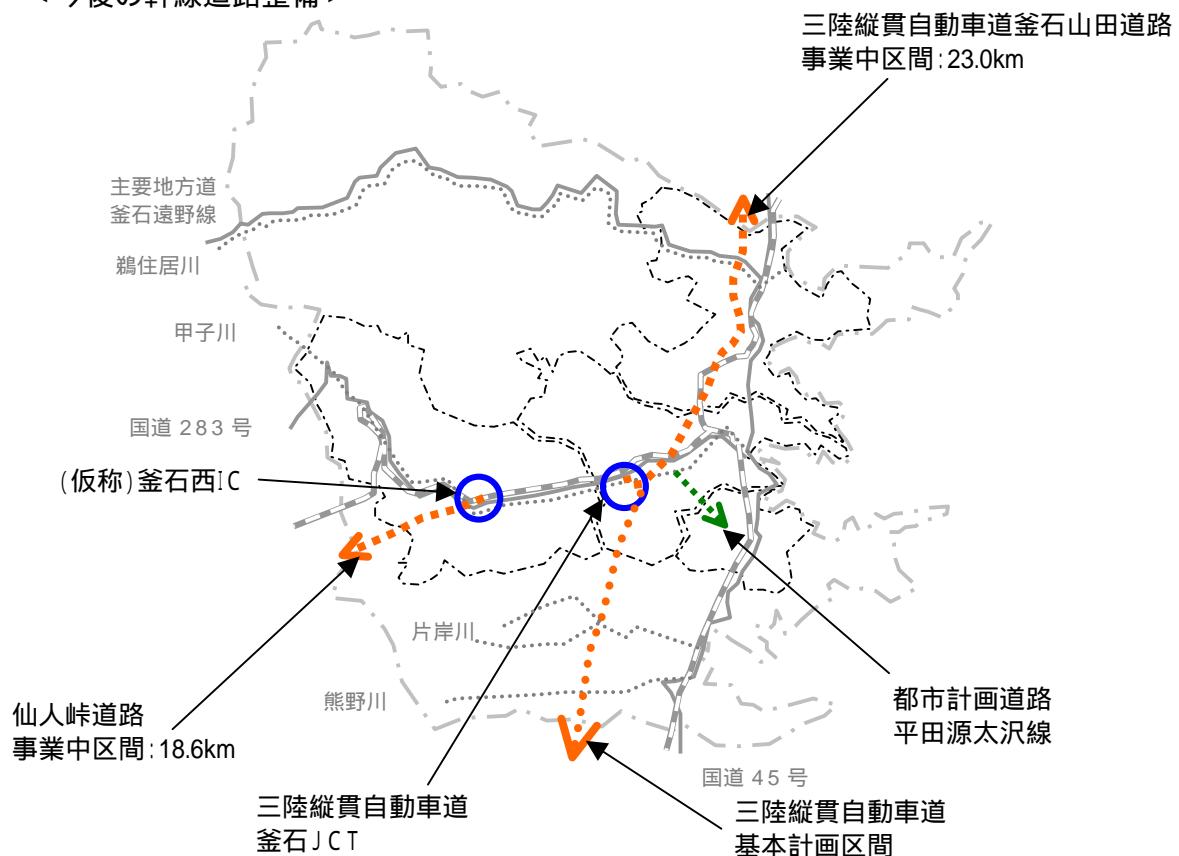
仙人峠道路、三陸縦貫自動車道等の整備が進められています。

- 本市と県内陸部を結ぶ国道 283 号と海岸沿いを南北に貫く国道 45 号は、市の中心部と周辺の釜石西地区、鵜住居地区、平田地区等を結ぶ主要道路となっています。
- 現在、国道 283 号仙人峠道路が整備中であり、また、宮古市と仙台方面を結ぶ三陸縦貫自動車道の整備が予定されている等、高速交通網が充実しつつあります。
- 市内の国道は全面改良済ですが、急勾配・急カーブの危険箇所が多く、さらに、国道 45 号は、鵜住居方面を中心として朝夕の交通渋滞の解消が長年の課題となっています。
- 都市計画道路の計画延長は 32 路線・55.8km で、そのうち改良済み延長は 27.15km となり、約半数近くが改良済となっています。

国道 45 号



<今後の幹線道路整備>

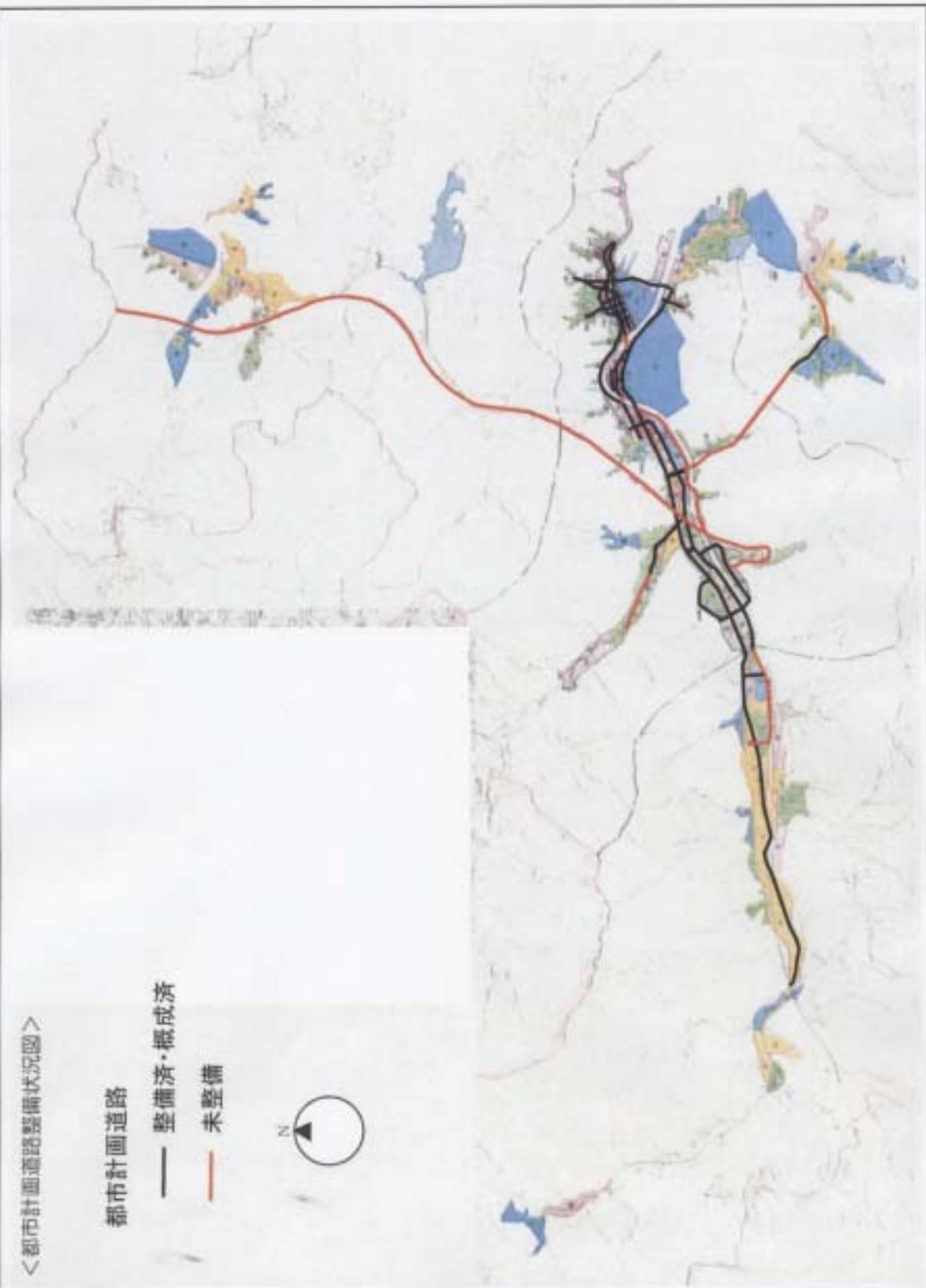


<都市計画道路整備状況図>

都市計画道路

—— 整備済・概成済

— 未整備



生活道路等

市街地で L 字・T 字に交わっている道路が多くみられます。

- ・土地区画整理事業が行われた釜石東地区においては、整備されていますが、狭隘な道路、歩道が狭い、段差があるなど、改善すべき箇所がみられます。
- ・市街地では、T 字路や L 字路が多いことから、アイストップ（目に止まる場所）として、良好な景観づくりが望まれています。
- ・市街地の山際に住宅等が密集したり、漁港等の背後に集落が広がる地域等では、生活道路が狭いところがあります。

市街地内のアイストップ



鉄道・バス等

公共交通の利用者は減少傾向にあります。

- ・JR 釜石線、JR 山田線、三陸鉄道南リアス線が市内の市街地を結んで通っているため、鉄道利便性は良好ですが、市内各駅の利用者は年々減少傾向にあります。

JR 釜石線：釜石駅、小佐野駅、松倉駅、洞泉駅、陸中大橋駅

JR 山田線：釜石駅、両石駅、鵜住居駅

三陸鉄道南リアス線：釜石駅、平田駅、唐丹駅

- ・バスも通勤・通学等の市民生活を支える重要な交通機関となっていますが、利用者は年々減少傾向にあり、路線によっては運行が廃止されたものもあります。

- ・100 世帯当たりの乗用車保有率は、県内市部の中では 2 番目に低い 127.4% であり（平成 12 年 3 月末現在）自家用車への依存は比較的少ないといえます。

鵜住居駅



都市公園

昭和 40 ~ 50 年代に整備された公園が多くみられます。

- ・都市計画公園は、計画決定面積 92.20ha のうち供用面積は 81.58ha であり、整備率は 88.5% となっています（平成 13 年 3 月 31 日現在）
- ・「岩手県の都市計画資料編（平成 12 年）」によると、本市の都市計画区域人口 1 人当たりの都市公園面積は 18.6 m² であり、県内 13 市部の中で 4 番目となっています。
- ・釜石東地区では、土地区画整理事業等により一体的な基盤整備が行われ、公園が計画的に配置されていますが、他の地区では、街区公園等の身近な都市公園が少なく、配置に偏りがみられます。
- ・都市公園の半分以上が昭和 50 年代までに整備されたものであり、大幅なりニューアル等が行われていないため、入口の段差等により高齢者や体の不自由な方が利用しにくい状況や、公園内の施設が老朽化している状況もみられます。

< 都市計画公園整備状況 >

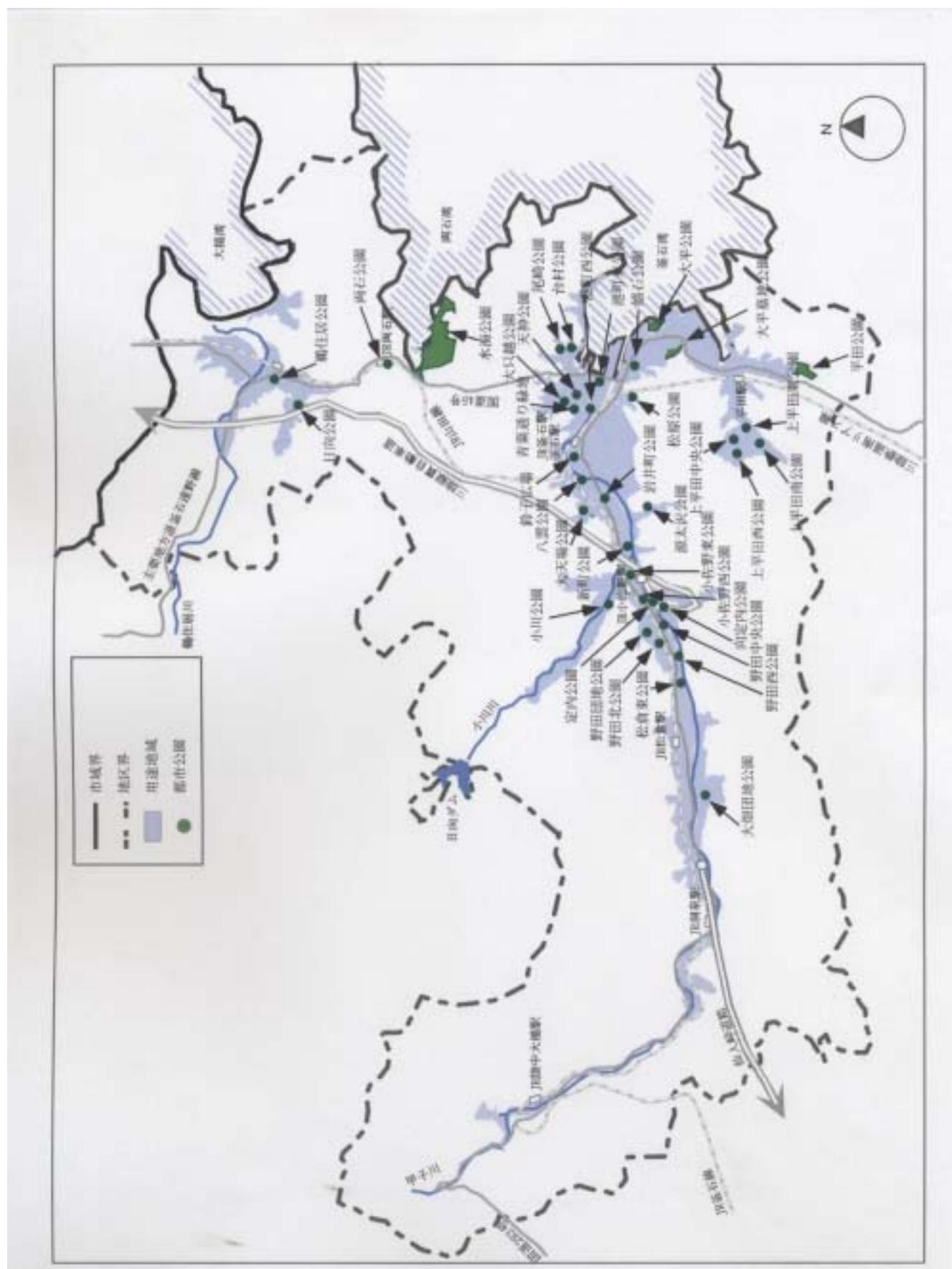
平成 13 年 3 月 31 日現在

		公園数	計画面積(ha)	供用面積(ha)	整備率
住区基幹公園	街区公園	25	4.9	4.18	85.7%
	近隣公園	3	2.2	1.90	86.4%
	地区公園	2	9.6	9.60	100.0%
	小計	30	16.7	15.68	93.9%
都市基幹公園	総合公園	2	64.3	58.70	91.3%
	運動公園	-	-	-	-
	小計	2	64.3	58.70	91.3%
特殊公園	風致公園	-	-	-	-
	墓園	1	10.6	6.60	62.3%
	森林公園	-	-	-	-
大規模公園	広域公園	-	-	-	-
都市緑地		1	0.2	0.20	100.0%
広場		1	0.4	0.40	100.0%
合計		35	92.2	81.58	88.5%

資料：釜石市都市計画課

水海公園



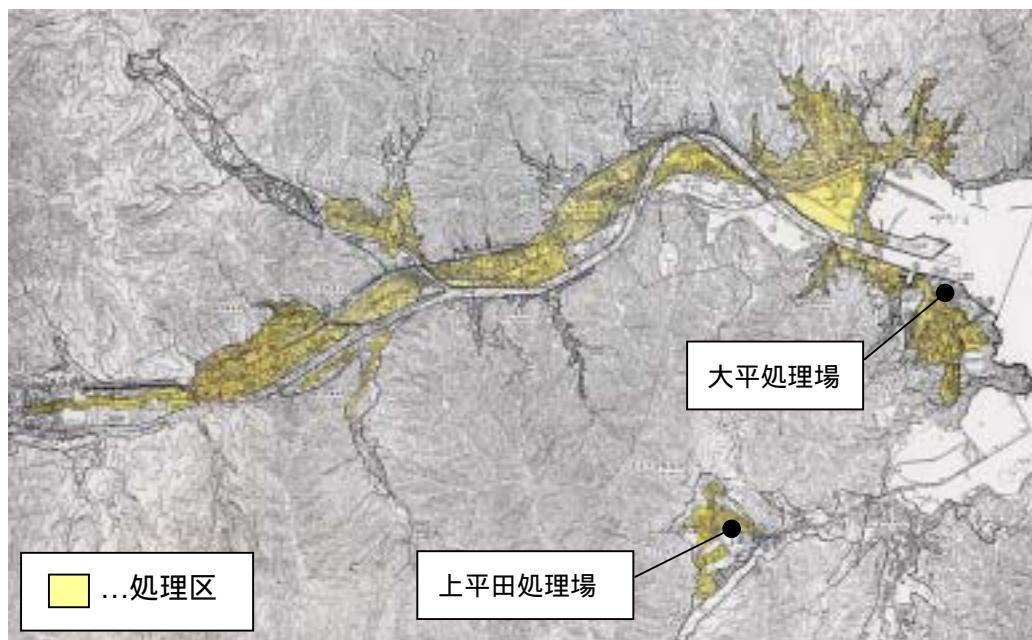


下水道整備

釜石東や上平田ニュータウンでは、下水道が整備されています。

- ・公共下水道は、昭和 30 年代から整備が進められており、平成 13 年 3 月 31 日現在、人口普及率 43.8%、面積普及率 67.9% となっています。整備は、釜石東地区や上平田ニュータウンを中心に進んでおり、釜石西地区での整備も徐々に進められています。平田（下平田）地区では、下水道排水区域に入っていますが未整備となっています。
- ・下水処理場は 2 か所（大平処理場、上平田処理場）にあります。

< 公共下水道処理区域図（平成 12 年度）>

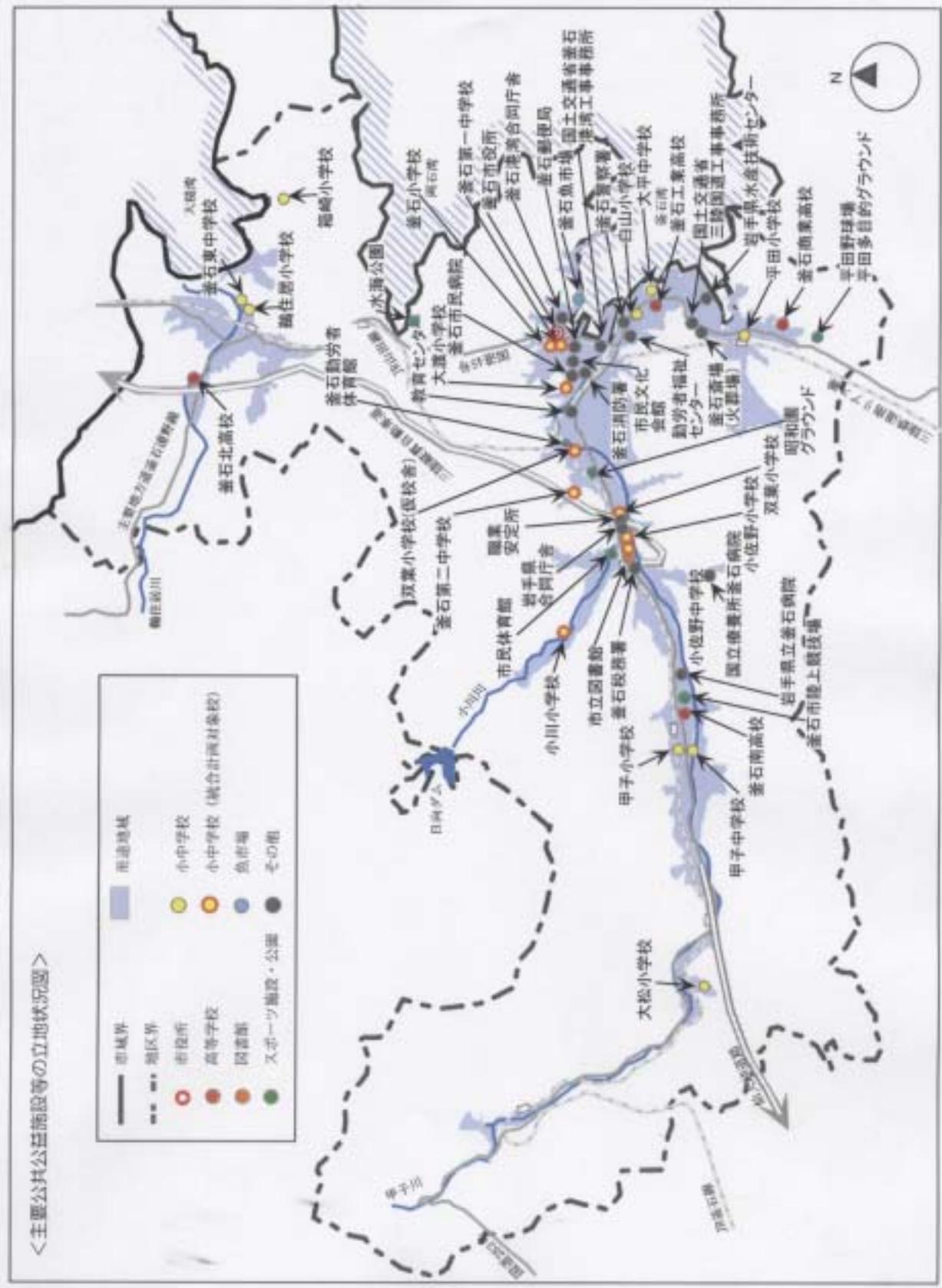


公共公益施設等

市庁舎等の主要な施設の移転が予定されています。

- ・市庁舎、市民文化会館等の主要な行政・文化施設は、中心市街地を中心に立地していますが、その多くは施設の老朽化がみられ、高齢者・体の不自由な方への対応も十分とはいえない状況にあります。現在、市庁舎や魚市場等の移転も計画されており、人の流れが大きく変わることも予想されます。
- ・市内には、小学校 16 校、中学校 8 校、高等学校 4 校ありますが、少子化等の要因により、小中学校の統合等を予定しています。
- ・駐車場は、駐車場整備地区の大町地区に大町駐車場が整備されています。
- ・火葬場は、平田地区の国道 45 号沿いに整備されています。
- ・し尿処理場は、釜石西地区の松倉地区への整備を予定しています。

<主要公共公益施設等の立地状況図>



(4) 市民生活

家族構成 高齢単身世帯が著しく増加しています。

- 平成 7 年から平成 12 年にかけて、「6 歳未満」「18 歳未満」の子供がいる世帯は大きく減少しています。「単独世帯」は 11.5% 増加しており、特に「65 歳以上」の単独世帯が 67.3% と著しく増加しています。

< 本市の家族構成の推移 >

	世帯数			6 歳未満親族のいる世帯			18 歳未満親族のいる世帯		
	H 7 年	H 12 年	増減率	H 7 年	H 12 年	増減率	H 7 年	H 12 年	増減率
一般世帯	17,839	17,616	1.3%	1,873	1,734	7.4%	5,085	4,299	15.5%
核家族世帯	10,423	10,116	2.9%	1,220	1,189	2.5%	3,111	2,707	13.0%
夫婦のみ	4,349	4,436	2.0%	-	-	-	-	-	-
夫婦と子ども	4,638	4,148	10.6%	1,163	1,122	3.5%	2,759	2,374	14.0%
男親と子ども	185	215	16.2%	1	3	200%	42	35	16.7%
女親と子ども	1,251	1,317	5.3%	56	64	14.3%	310	298	3.9%
その他親族世帯	3,494	3,124	10.6%	653	545	16.5%	1,969	1,590	19.2%
夫婦と両親	114	160	11.1%	-	-	-	-	-	-
夫婦と片親	569	565	0.7%	-	-	-	-	-	-
夫婦・子どもと両親	771	618	19.8%	281	226	19.6%	700	560	20.0%
夫婦・子どもと片親	1,028	860	16.3%	159	124	22.0%	683	519	24.0%
夫婦と他の親族	94	85	9.6%	8	6	25%	30	23	23.3%
夫婦・子どもと他の親族	194	187	3.6%	44	51	15.9%	141	137	2.8%
夫婦・親と他の親族	74	49	33.8%	12	6	50%	25	12	52.0%
夫婦・子ども・親と他の親族	236	202	14.4%	121	109	9.9%	221	187	15.4%
兄弟姉妹のみ	91	102	12.1%	-	-	-	2	2	0.0%
その他	293	296	1.0%	28	23	17.9%	167	150	10.2%
非親族世帯	25	32	28.0%	-	-	-	-	-	-
単独世帯	3,897	4,344	11.5%	-	-	-	5	2	60%
65 歳以上	1,298	2,172	67.3%	-	-	-	-	-	-

資料：国勢調査

住宅 借家の占める割合が、比較的高くなっています。

- 住宅土地統計調査（平成 10 年）によると、市内の住宅のうち建築後 20 年以上を経過している住宅は 72.7% を占めており、県内市部の中で最も老朽化が進んでいます。また、本市の持ち家率は低く（67.7%、県内市部 10 位）借家の割合、特に給与住宅が多くなっています。
- 国勢調査（平成 12 年）によると、世帯当たり延べ面積は 99.8 m² であり、県平均（118.4 m²）を下回っています。一般的に借家より広い持家も 122.3 m² であり、盛岡市（129.6 m²）と比較しても狭くなっています。
- 市内には 650 戸の市営住宅が建設されていますが、平成元年以降に建設されたのは嬉石コミュニティ（一部）だけであり、耐用年限の 2 分の 1 を超えて、建替えや改善の検討対象となる市営住宅が多くなっています。
- 県営住宅が 290 戸、雇用促進住宅が 560 戸整備されています。

<公営住宅の概要>

団地名	構造	戸数	建設年度
洞泉	中層耐火	82	S54～S57
	準耐火二階	6	S53
	準耐火二階	12	S37 (S56 改善)
野田	中層耐火	70	S48～S50
野田団地	中層耐火	18	S45
上中島	中層耐火	40	S48～S50
	準耐火平屋	3	S50
源太沢	準耐火二階	20	S54
緑ヶ丘	中層耐火	12	S51～S52
	準耐火二階	24	S51
大只越	中層耐火	54	S26～S28 (S53～S55 改善)
大平	中層耐火	24	S38
ニュータウン	中層耐火	32	S56
鵜住居 (政策空家)	準耐火二階	36	S34、S36
日向	中層耐火	24	S47
片岸	中層耐火	18	S46
嬉石 コミュニティ	中層耐火	135	S53～S56、H6～H7、H10～H11
釜石ビル	中層耐火	40	S57
市営住宅合計		650	

団地名	戸数
大平	43
上平田	144
日向	103
県営住宅計	290
洞泉	80
釜石(野田団地)	80
平田	80
平田第二	80
日向	80
片岸	160
雇用促進住宅合計	560

資料：釜石市統計書、釜石市建設課

<公営住宅分布図>



地価

住宅地、商業地ともに比較的高くなっています。

- ・県地価調査（平成 14 年）によると、本市の住宅地の地価は 495 百円/m²であります、岩手県平均地価 372 百円/m²を上回り、県内市部の中で 4 番目に高くなっています（最高額：盛岡市 940 百円/m²）。
- ・下落傾向にある商業地の地価も、県平均地価 1,003 百円/m²を上回る 1,170 百円/m²であります、県内市部の中で 5 番目の値となっています（最高額：盛岡市 3,251 百円/m²）。

災害

津波等による甚大な被害を受けています。

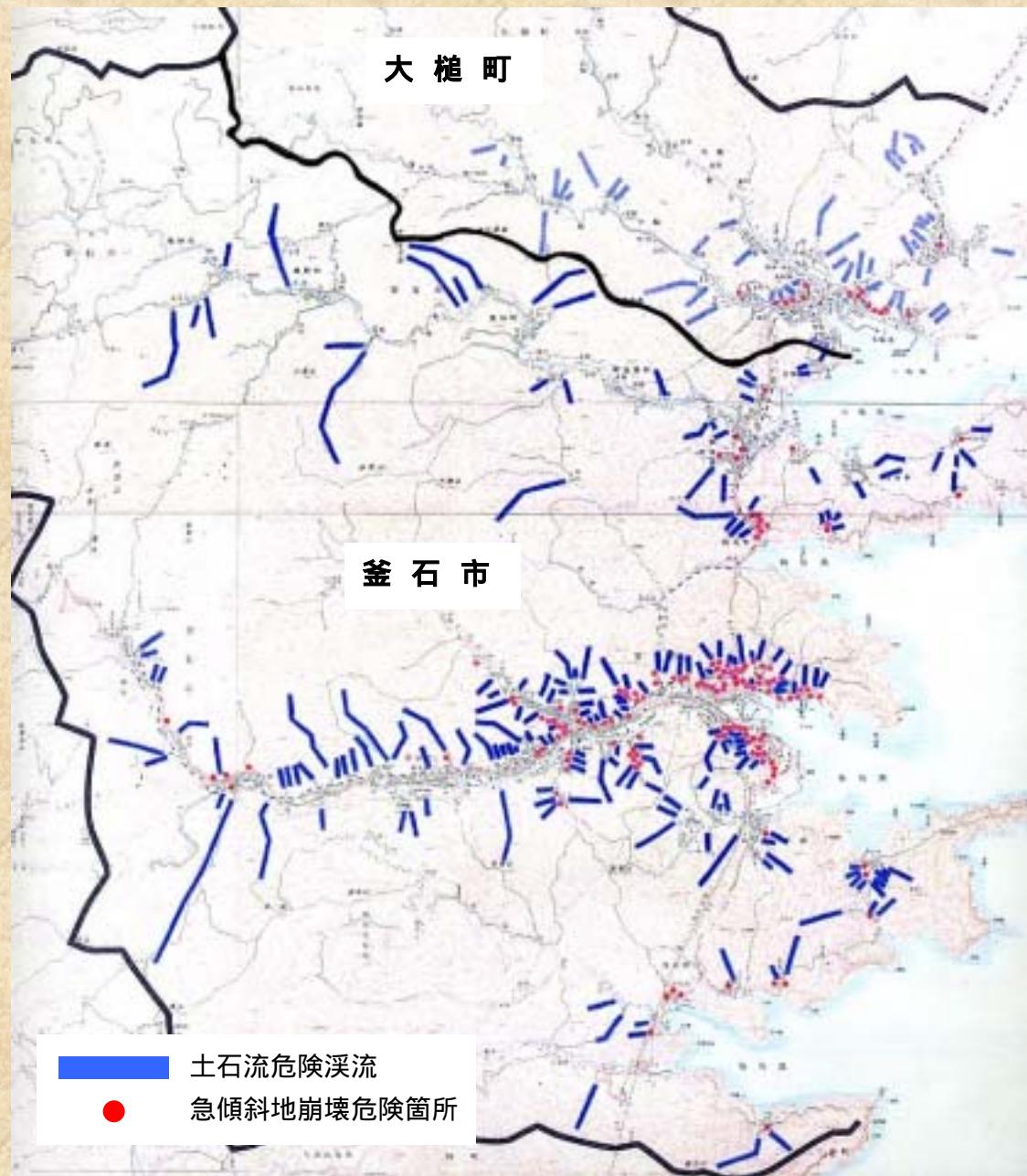
- ・沿岸部では、明治 29 年、昭和 8 年の三陸大津波、昭和 35 年のチリ地震津波等による災害を被っています。そのため、釜石港や各漁港等では、防波堤などが整備されており、中でも、昭和 53 年度から釜石港湾口地区に全長 1,960m（北堤 990m、南堤 670m、開口部 300m）最大水深 - 63m（世界最大水深）の世界最大級の防波堤の建設が進められています。
- ・地形的に県内でも急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流が多い都市であるため、集中豪雨等による被害が発生しています。
- ・市内には、火災・地震災害の避難場所として 41 カ所、かけ崩れ災害の避難場所として 43 カ所、津波災害の避難場所として 62 カ所を校庭、公園、社寺境内等に指定しています。

市民活動

市民参加によるまちづくりが始まっています。“釜石ラグビー”も受け継がれています。

- ・「中心市街地活性化基本計画（平成 12 年）」策定時には、商業者や市民の参加によるワークショップや懇談会が実施され、また、栗橋地区・唐丹地区において、市民による「地域資源の再発見（地元学）」が行われるなど、市民参加によるまちづくりが始まっています。
- ・新日鐵（株）釜石製鐵所ラグビー部は、昭和 60 年に前人未到のラグビー日本選手権 7 連覇を達成し「釜石」の名を全国に広めました。現在、ラグビー部はなくなりましたが、市民ボランティアが事務局をつとめる総合型地域スポーツクラブ「釜石シーウェイブス R F C」として“釜石ラグビー”は受け継がれています。
- ・市民によるボランティア活動、若者の手で作りあげられた「釜石よいさ」、スポーツを通じた市民活動として「国際トライアスロン大会」の開催等、様々な分野で市民によるまちづくり活動が行われています。
- ・本市では、NPO 法人（特定非営利活動法人）として、福祉と環境に関する法人が認証を受け活動しています。

< 土砂災害危険箇所 >



資料：釜石地方振興局土木部管内土砂災害危険箇所(平成 9 年)

	土石流危険渓流	急傾斜地崩壊危険箇所
岩手県	1790	795
釜石市	194	138

資料：釜石地方振興局土木部 (平成 9 年)

2 - 5 市民意向調査

近年実施されたアンケート調査に基づく、市民や中高生のまちづくりに対する意見は以下のとおりです。

第五次釜石市総合計画策定に際して実施した「市民・高校生アンケート調査（平成11年）」より

市民 アンケート	働く場、買物、交通に対しての不満が多い。 地域づくりについては積極的な貢献を考えています。
----------	--

- 暮らしの満足度としては、「ゴミ処理」や「広報活動」等について満足度が高く、「物価」「定年後や女性の働く場」「市内での買物」「交通の便」等に対する不満の割合が高くなっています。
- 将来人口については、「人口にとらわれず活気あるまちづくりをすべき」が41.2%と最も高く、次いで「現状維持」27.0%となっています。
- 市が今後10年間に取り組む施策としては、「働く場の確保」20.8%が最も高く、次いで「道路交通網整備」18.8%となっており、暮らしの不満に対する改善を望む声が大きくなっています。
- 地域づくりについては、68.8%が「参加する」と回答しており、積極的な姿勢がうかがえます。

高校生 アンケート	自然環境等を評価しつつ交通の便への不満は大きく、このまま住み続けることはできないと考えています。
-----------	--

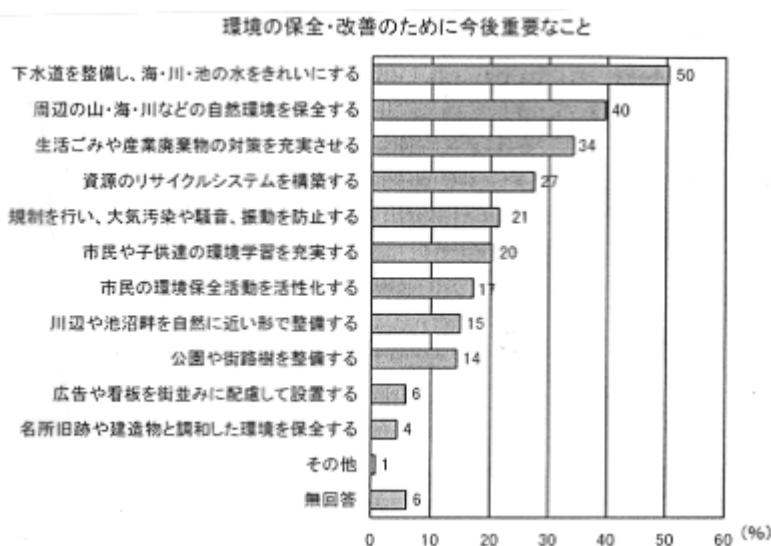
- 満足度として「気候や自然の豊かさ」86.2%が最も高く、次いで「地域や学校でのつき合い、コミュニティ活動」51.3%となっています。逆に不満の割合が高いのは、「市外へ行くための交通の便」82.0%、「日常の交通の便」80.0%、「日常の買物や飲食の便」62.6%となっています。
- 今後の定住については、8割近くが市外への定住を望んでおり、その理由としては、「仕事、職業がない」が半数近くを占めています。
- 21世紀の釜石の望ましいイメージとしては、「便利」「快適」「活力・元気」という回答が多くなっています。

「環境基本計画アンケート調査（平成12年）」より

市民アンケート

きれいな海や川を汚さないことを考えています。

- ・「環境保全のために重要なこと」として、回答者の半数が下水道整備をあげており、次いで山・海・川等の自然環境の保全となっています。



中高校生アンケート

身近に自然と触れあうことが大切だと考えています。

- ・「自然への理解を深めるための方策」として、回答者の半数が「自然とふれあえる公園などを増やす」を挙げており、環境学習や行事への要望も高いことから、身近に自然と触れあう機会が増えることを望んでいます。

自然を大切にする気持ちを深めるための方法

